

国語科 シラバス

茨城県立神栖高等学校

教科名	国語		教科書等	新編 現代文B 改訂版		
科目名	現代文B	教材等				
目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。					
評価の観点	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
観点の趣旨	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身につけている。	
評価方法	学習状況の観察	○	○		○	
	提出物・課題等	○	○	○		○
	定期考査等			○	○	○
観点の重み (%)	20	20	20	20	20	

学期	月	単元内容 (単元名)	具体的な学習内容	
第1学期	4	1 明日をひらく	<ul style="list-style-type: none"> ・「きっと叶いますよ」 ・「迷う」力のすばらしさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・黙々と働くH先生の様子と、それを筆者がどのように感じているかを読み取る。 ・読み取ったことをふまえて、自分が今まで出会った中で心に残った人物について文章を書く。” ・便利さを求める現代において、迷うことが人生のたのしみであり豊かさであるという筆者の考えを読み取る。
	5	2 小説を楽しむ (一)	<ul style="list-style-type: none"> ・ざしきわらし ・ナイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張に対する自分の意見を手紙の形で書く。 ・登場人物の心情や人物像をとらえる。 ・「ざしきわらし」が象徴していることを読み取る。 ・正太郎に対するナインの思いを読み取り、作品の主題を理解して、「わたし」の考えに対する自分の意見をもつ。
	6	3 暮らしの中のことば	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉は変わるもの、されど伝承すべきもの 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の不易と流行に対する知識を深め、日本語を学ぶ楽しみを味わう。 ・自然に関する日本語について調べて発表する。
	7		<ul style="list-style-type: none"> ・情報の力関係 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形、文字、絵など、さまざまな情報の「力関係」について理解し、自分の生活を見つめ直す。
第2学期	9	4 詩を味わう	<ul style="list-style-type: none"> ・小諸なる古城のほとり ・小景異情 ・六月 ・コスモス 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代、現代の有名な詩を声に出して読み、情景や心情をとらえ、言葉のリズムを味わう。
	10	5 「自然」を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴリラの思いやり ・ウサギの耳はなぜ長い？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ゴリラの流儀」とはどのようなものかを読み取り、筆者の主張を理解する。 ・共進化とはどのような概念かを理解し、自然界に対する興味を深める。 ・生物の生態や進化について調べてわかったことを文章に書く。
	11		<ul style="list-style-type: none"> ・人工の自然——科学技術時代の今を生きるために 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発達した現代における「人工の自然」という考え方を読み取り、筆者の主張を理解する。 ・読み取ったことをもとに、身のまわりの「人工の自然」について話し合う。
	12	6 名作を読む	<ul style="list-style-type: none"> ・山月記 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢文調の表現の響きやリズムを味わい、文体の魅力を知る。 ・登場人物の心情の移り変わりや情景描写に注意しながら、作品の主題を読み取る。
第3学期	1	7 ユーモアと心のゆとり	<ul style="list-style-type: none"> ・祖母が笑うということ ・ももこのいきもの図鑑 ・空飛ぶ魔法のほうき 	<ul style="list-style-type: none"> ・「僕」と祖母のやりとりのおもしろさや文章のリズムを味わいつつ、人と人との心の触れ合いの温かさを読み取る。 ・ユーモアに富んだ文章を読み、筆者の着眼点と表現のしかたのおもしろさを味わう。 ・少女と金物屋のおじさんとの会話から、想像力の豊かさや心のゆとりの大切さを読み取る。
	2	8 情報化時代に生きる	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアって何？ ・「検索」時代における読書 	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの特性を理解し、筆者の主張を理解する。 ・メディアによってメッセージの印象がどのように変わるかを話し合う。 ・「検索」時代の利点と問題点について理解し、筆者の主張をとらえる。
	3		<ul style="list-style-type: none"> ・[言語活動] テーマを設定して調べた成果をまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み取ったことをふまえて、読書の意義について自分の意見をまとめる。 ・テーマを決め、適切な方法で調査を行い、調べたことをわかりやすく書いてまとめる。

地理歴史科 シラバス

茨城県立神栖高等学校

教科名	地理歴史科	単位数	3	教科書等	明解 世界史A
科目名	世界史A	教材等			
目標	近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
観点の趣旨	授業を休まず学習目標を達成しようと努力でき、主体的に対応できる態度が育ったか。	世界史について自分の考え方を主体的に持つことの大切さを自覚しているか。また自ら判断し、表現できるか。	世界史に関する諸資料や年表を適切に選択して、効果的に活用している。	世界史に対する基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けたか。	
評価方法	学習状況の観察	○	○	○	—
	提出物・課題等	○	○	○	—
	定期考査等	—	○	○	○
観点の重み (%)	25	15	15	45	

学期	月	単元内容 (単元名)	具体的な学習内容
第1学期	4	I部 世界の一体化と日本 第1章 前近代の諸文明	人類の始まり 東アジアの文明 南アジアの文明 東南アジア 西アジア・北アフリカの文明 ヨーロッパの文明 南北アメリカの文明 ユーラシアの交流圏
	5		
	6		
	7		
		2章 一体化に向かう世界	繁栄するアジア 大航海時代と新たな国家の形成
第2学期	9	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺	ヨーロッパとアメリカの諸革命 自由主義・ナショナリズムの進展 アジア諸国の動揺。 東アジアの大変動
	10		
	11		
	12		
		2部 地球社会と日本 1章 現代社会の芽生えと世界大戦	第一次世界大戦がもたらしたもの
第3学期	1	2章 冷戦から地球社会へ	民族自決をもとめて 経済危機から第二次世界大戦へ 冷たい戦争の時代 冷戦終結への道のり
	2		
	3		

数 学 科 シ ラ バ ス

茨城県立神栖高等学校

教科名	数学	単位数	3	教科書等	改訂版 最新 数学Ⅱ (数研出版)
科目名	数学Ⅱ	教材等			
目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
観点の趣旨	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えの考え方に興味をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	学習状況の観察	○	○	—	—
	提出物・課題等	○	○	—	—
	定期考査等	—	—	○	○
観点の重み (%)	20	20	30	30	

学期	月	単元内容 (単元名)	具体的な学習内容	
第1学期	4	第1章 式と証明 第1節 式と計算 3次式の展開と因数分解 二項定理 整式の割り算 分数式とその計算	3次式の展開公式・因数分解 パスカルの三角形 二項定理、整式の割り算 等式 $A=BQ+R$ の利用 分数式の約分・四則計算	<ul style="list-style-type: none"> 3次式の展開及び因数分解の公式を利用する。 二項定理とパスカルの三角形を結びつけて考える。 整式の割り算の計算方法を理解し計算する。 整式の割り算の結果を等式で表して考える。 分数式を分数と同じように扱う。
	5	恒等式 第2節 等式・不等式の証明 等式の証明 不等式の証明	恒等式、恒等式の証明 条件付きの等式の証明 実数の大小関係、実数の平方、平方の大小関係 相加平均・相乗平均	<ul style="list-style-type: none"> 恒等式となるように係数を決定する。 恒等式、等式を適切に証明する。 実数の大小関係の基本性質、実数の性質、平方の大小関係を用いて不等式を証明する。 相加平均、相乗平均を利用する。
	6	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 複素数とその計算 2次方程式の解 解と係数の関係	複素数 複素数の計算 負の数の平方根、解の公式 2次方程式の解の種類の判別、解と係数の関係 2次方程式の決定	<ul style="list-style-type: none"> 複素数の表記。複素数の四則計算。 2次方程式を解く。 判別式を利用して、2次方程式の解の種類を判別する。 解と係数の関係を活用する。
	7	第2節 高次方程式 剰余の定理と因数定理 高次方程式	剰余の定理 因数定理 高次方程式	<ul style="list-style-type: none"> 剰余の定理、因数定理を活用する。 高次方程式を1次、2次方程式に帰着させる。
第2学期	9	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 直線上の点 平面上の点 直線の方程式 2直線の関係	直線上の点、内分と外分 座標平面上の点 2点間の距離 内分点、外分点の座標 2直線の平行、垂直 点と直線の距離 円の方程式	<ul style="list-style-type: none"> 数直線上及び座標平面上において、2点間の距離、内分点、外分点を求める。 直線の方程式を表す。 2直線の平行、垂直条件を利用する。 点と直線の距離の公式を利用する。
	10	第2節 円 円の方程式 円と直線 2つの円	円と直線の共有点の座標 円と直線の位置関係 円の接線の方程式 2つの円の位置関係	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解する。 円と直線の共有点の座標を求める。 円の接線の公式を利用する。 2つの円の位置関係を考察する。
	11	第4章 三角関数 第1節 三角関数 角の拡張 三角関数 三角関数のグラフ 三角関数の性質	弧度法 三角関数 三角関数の相互関係 三角関数のグラフ 三角関数を含む方程式、不等式	<ul style="list-style-type: none"> 一般角を考察する。 弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をする。 三角関数の相互関係を理解する。 三角関数のグラフをかく。 三角関数を含む方程式、不等式を解く。
	12	三角関数を含む方程式、不等式 第2節 加法定理 三角関数の加法定理 加法定理の応用	加法定理 2倍角の公式、半角の公式 三角関数の合成	<ul style="list-style-type: none"> 加法定理を利用する。 2倍角、半角の公式を利用する。 三角関数の合成を理解する。

第 3 学 期	1	第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 指数の拡張 指数関数 第2節 対数関数 対数とその性質 対数関数 常用対数	整数の指数 累乗根 有理数の指数 指数関数のグラフ 対数 対数の性質 底の変換公式 対数関数とそのグラフ 対数関数の特徴 常用対数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指数の範囲を実数にまで拡張する。 ・ 累乗根の定義を理解し、累乗根の計算をする。 ・ 指数関数のグラフの概形、特徴を理解する。 ・ 対数の定義を理解し、その値を求める。 ・ 対数の性質に基づいた計算をする。 ・ 底の変換公式を利用する。 ・ 対数関数のグラフの概形、特徴を理解する。 ・ 常用対数の定義を理解する。 ・ 常用対数を利用して、桁数の問題や小数首位問題などを解く。
	2	第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 微分係数 導関数とその計算 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 関数の増減と極大・極小 関数の増減・グラフの応用	平均変化率 極限值 微分係数 微分係数と接線 導関数 接線の方程式 関数の増減と導関数 関数の極大・極小	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平均変化率、微分係数の定義を理解し、それらを求める。 ・ 導関数に関する種々の記号を適切に使う。 ・ 導関数の計算をする。 ・ 接線の方程式の公式を利用する。 ・ 導関数を利用して、関数の増減や極値を調べる。
	3	第3節 積分法 不定積分 定積分 定積分と図形の面積	不定積分 定積分 2つの曲線の間での面積	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不定積分の計算方法を理解する。 ・ 定積分の計算方法を理解する。 ・ 定積分を利用して直線や曲線で囲まれた部分の面積を求める。

理 科 シ ラ バ ス

茨城県立神栖高等学校

教科名	理科	単位数	3	教科書等	化学（東京書籍）
科目名	化学	教材等			
目標	化学的な事物・現象に対する関心や探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
観点の趣旨	化学的な事物・現象に関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに、科学的態度を身につけている。	化学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	化学的な事物・現象に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身につけている。	化学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身につけている。	
評価方法	学習状況の観察	○	○	○	—
	提出物・課題等	—	○	○	—
	定期考査等	—	○	○	○
観点の重み (%)	30	20	20	30	

学期	月	単元内容（単元名）	具体的な学習内容
第1学期	4	5編 有機化合物 1章 有機化合物の特徴と構造	有機化合物の特徴 有機化合物の構造式の決定
	5	2章 炭化水素	飽和炭化水素 不飽和炭化水素
	6	3章 酸素を含む有機化合物	アルコールとエーテル アルデヒドとケトン カルボン酸とエステル
	7		油脂とセッケン
第2学期	9	4章 芳香族化合物	芳香族炭化水素 酸素を含む芳香族化合物
	10		
	11		窒素を含む芳香族化合物 芳香族化合物の分離
	12	5編 有機化合物 5章有機化合物と人間生活	食品・医薬品・染料・洗剤
第3学期	1	1編物質の状態と平衡 1章物質の状態	物質の三態 気体・液体間の状態変化

・有機物が炭素骨格構造をもつことを知り、骨格の多様性（飽和・不飽和など）から極めて多種多様な化合物が存在することを理解できる。
 ・炭化水素の分類（飽和・不飽和、鎖式・環式）と炭化水素基と官能基の組合せを理解できる。
 ・示性式と構造式の違いを理解し、構造異性体、立体異性体（シス・トランス異性、光学異性）等について具体例をあげて説明できる。
 ・炭素原子骨格に基づく名称と構造の関係（アルカン、アルケン、アルキン）を理解できる。
 ・アルカンを中心に異性体について理解できる。
 ・一般式等をもとにシクロアルカンとアルカンの類似性を結び付けられる。
 ・アルケン（エチレン）の性質と反応（付加反応、付加重合）およびシス・トランス異性について理解できる。
 ・アセチレンの製法と性質・反応（アルケンとの類似性）について理解できる。

・アルコールの反応（ナトリウム、級数分類と酸化反応生成物、脱水縮合反応）を理解できる。
 ・エタノールおよびジエチルエーテルの製法と性質からエーテルの構造とアルコールとの構造異性体関係を結び付けられる。
 ・アルデヒドの各種反応（銀鏡反応、フェーリング液の還元、酸化生成物）を理解できる。
 ・アセトアルデヒドの性質と反応を理解できる。
 ・カルボン酸の構造と分類方法およびカルボキシ基の特性（弱酸性）と反応を理解できる。
 ・ギ酸について構造からその特異性を理解できる。
 ・シス・トランス異性体と酸無水物の関係を結び付けられる。
 ・乳酸を例に光学異性体について理解できる。
 ・セッケンを例にけん化を理解し、界面活性剤について理解を深める。

・ベンゼンを中心とした代表的な芳香族化合物の構造、製法、性質を理解できる。
 ・置換反応、付加反応、酸化反応など芳香族化合物の反応性を理解できる。
 ・ベンゼン環の安定性と付加反応に比べ置換反応が起こりやすい特徴を結びつけて考察できる。
 ・フェノール類の構造、性質、製法を理解できる。
 ・フェノール類とアルコールの共通点、相違点を具体的に述べられる。

・芳香族アルデヒド・ケトン・カルボン酸の構造、性質、製法を理解できる。
 ・脂肪族化合物との類似性から芳香族化合物の酸化反応について理解を深められる。
 ・2種類の官能基をもつ化合物の反応性をサリチル酸を例に理解できる。
 ・アニリンが塩基性であることから、アミンに共通の性質を理解できる。
 ・ナイロンの構造と製法、アゾ染料の合成法を理解し、有機合成が日常生活と深く結びついていることを考察できる。

・有機化合物全般について、人間生活と関連づけて理解し、知識を身につけている。
 ・「有機化合物」についての学習課題に対し、科学的な態度で観察、実験、調査などを行い、意欲的に探究しようとする。

・物質の三態変化について、エネルギー・温度・分子間力の影響について理解・習得し、その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身につけている。
 ・気体・液体間の状態変化について、気液平衡・沸騰の現象や状態図を理解・習得し具体的なあてはめ方について基本的な知識を身につけている。

理 科 シ ラ バ ス

茨城県立神栖高等学校

教科名	理科	単位数	2	教科書等	改訂高等学校生物基礎（第一学習社）
科目名	生物基礎	教材等			
目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
観点の趣旨	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を修得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	学習状況の観察	○	○	○	—
	提出物・課題等	—	○	○	—
	定期考査等	—	○	○	○
観点の重み (%)	30	20	20	30	

学期	月	単元内容（単元名）	具体的な学習内容
第1学期	4	1編 生物と遺伝子 第1章 生物の特徴	生物の多様性と共通生 <ul style="list-style-type: none"> 地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 共通の祖先が長い年月の間に変化して、生物が多様化したことを理解する。 生物が共通にもつ特徴を理解する。 細胞には原核細胞と真核細胞があること、及びそれぞれの特徴について理解する。
	5	第2章 遺伝子とその働き	細胞とエネルギー <ul style="list-style-type: none"> 代謝には同化と異化があること、また、代謝に伴うエネルギーの移動にはATPが関わっていることを理解する。 光合成は、光エネルギーによってATPをつくり、このエネルギーによって有機物を合成する過程であることを理解する。 呼吸は、酵素の働きによって有機物が段階的に分解されてエネルギーが取り出され、ATPが作られる過程であることを理解する。
	6		遺伝子の本体の構造 <ul style="list-style-type: none"> ヌクレオチドの構造および、塩基の相補性にもとづくDNAの二重らせん構造について理解する。
	7		遺伝情報の複製と分配 <ul style="list-style-type: none"> 多細胞生物では、一部の細胞が分裂して増殖していること、分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。 間期にDNAが複製され、細胞分裂を通じて均等に分配されることで、細胞分裂の前後で遺伝情報の同一性が保たれることを理解する。 細胞の分裂の各過程で起こる現象を理解する。
		遺伝情報とタンパク質の合成 <ul style="list-style-type: none"> 生体内には多種多様なタンパク質が存在し、酵素などとしてさまざまな働きをしていることを理解する。 タンパク質は、多数のアミノ酸が鎖状につながってできたものであることを理解する。 DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ（転写）、これがアミノ酸配列に置き換えられる（翻訳）流れを理解する。 	
第2学期	9	第3章 生物の体内環境	体液とその働き <ul style="list-style-type: none"> 恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 ヘモグロビンによる酸素の運搬を中心に、血液の働きと恒常性について理解する。 心臓の構造、血液循環の経路について理解する。 腎臓の働きによって、体液中の塩類などの濃度が保たれていることを理解する。 肝臓でさまざまな物質の合成・分解・貯蔵が行われて、体液の成分が保たれていることを理解する。
	10	体内環境の維持のしくみ 生体防御	体内環境の維持のしくみ <ul style="list-style-type: none"> 自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 ヒトの内分泌腺の種類と構造、そこから分泌されるホルモンの作用について理解する。 血糖量の調節について、自律神経系とホルモンの相互作用を中心に理解する。
	11		生体防御 <ul style="list-style-type: none"> 皮膚や粘膜による生体防御について理解する。 自然免疫のしくみを理解する。 抗体の特徴について理解する。 獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。
	12		<ul style="list-style-type: none"> アレルギーや自己免疫病、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。 免疫のしくみを用いている予防接種や血清療法のしくみ、近年では抗体医薬が用いられていることを理解する。
第3学期	1	第4章 バイオームの多様性と分布	植生と遷移 <ul style="list-style-type: none"> 植生は、相観によって森林・草原・荒原に大別されることを理解する。 陽生植物、陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 乾性遷移のモデルについて、土壌の形成や光環境の変化などの環境形成作用に注目して理解する。
	2	バイオームとその分布	<ul style="list-style-type: none"> 地球上には、それぞれの場所に適応した植物が生育し、いろいろなバイオームが成立していることを理解する。 世界のバイオームの種類と分布を理解する。
	3		<ul style="list-style-type: none"> 身近な地域の気温と降水量からバイオームを推定し、野外で調査した植生と一致するかどうか確認する。

保健体育科 シラバス

茨城県立神栖高等学校

教科名	保健体育	単位数	2	教科書等	最新高等保健体育 改訂版
科目名	体育(2学年I類)	教材等		最新高等保健体育ノート 改訂版	
目標	運動の合理的・計画的な実践を通して、知識を深めると共に技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことが出来るようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正・協力・責任・参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
観点の趣旨	出席を常とし遅刻をせず、公正・協力・責任・参画などに対する意欲を持ち、健康安全を確保して学習に主体的に取り組もうとする。	自己や仲間の課題や状況に応じて、運動を継続するための計画を工夫している。	各領域の運動の特性に応じて、自己の技能を発揮している。	体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、健康安全の確保、豊かなスポーツライフの仕方などを理解する。	
評価方法	学習状況の観察	○	○	○	○
	提出物・課題等	○	○	○	○
	定期考査等	-	-	-	○
観点の重み (%)	70	10	10	10	

学期	月	単元内容(単元名)	具体的な学習内容
第1学期	4	オリエンテーション 体育理論 体づくり運動・集団行動・体操	・スポーツの技術と技能
	5	選択(球技: ネット型・ゴール型) バドミントン・ソフトテニス・バスケットボール・バレーボール	・技能とは何かを知り、技術の型によって練習の仕方は異なり、戦術、作戦、戦略について考える 【体操】 ・準備運動としてラジオ体操を習得し、怪我の予防に努める。
	6	体育理論 選択(球技: ネット型・ゴール型)	・技術の上達過程と練習
	7	卓球・フットサル・バスケットボール・バレーボール	・うまくするための3つのステップを知り、練習方法の工夫を考える。 【球技】 ・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て実生活に役立てる。 ・チームの課題や自己の能力に応じて個々の技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームが出来るようにする。
第2学期	9	体育理論 ダンス(フォークダンス)	・技能と体力
	10	体育理論 陸上競技(中・長距離)	・技能と体力の相互関係と、練習やトレーニングの基本原則を知る。 【ダンス】 ・ダンスに主体的に取り組み、踊り方の特徴を協調して、音楽に合わせて仲間と対応して踊ることが出来るようにする。
	11	選択(球技: ネット型・ゴール型)	・体力トレーニング
	12	卓球・フットサル・バスケットボール・バレーボール	・体力トレーニングの基礎理論を理解し、トレーニングの計画を立ててみる。 【陸上競技】 ・自己の能力に応じて、記録の向上や競争の楽しさ喜びを味わい、技能を高めることが出来るようにする。
第3学期	1	体育理論 選択(球技: ネット型・ゴール型)	・筋力、持久力、調整力、柔軟性を高めるすべを知る。
	2	卓球・フットサル・バスケットボール・バレーボール	
	3	体育理論	・運動スポーツにおける安全の確保 ・運動スポーツにおける棄権を把握し、棄権を予防する。

保健体育科 シラバス

茨城県立神栖高等学校

教科名	保健体育	単位数	1	教科書等	最新高等保健体育 改訂版
科目名	保健(2学年I類)	教材等		最新高等保健体育ノート	改訂版
目標	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく脂質や能力を育てる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
観点の趣旨	出席を常とし遅刻をせず、毎時間ノートをまとめ、意欲的に学習に取り組もうとしている。	課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。		課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、実生活に活かそうとしている。	
評価方法	学習状況の観察	○	○	-	○
	提出物・課題等	○	○	-	-
	定期考査等	-	○	-	○
観点の重み (%)	40	20	-	40	

学期	月	単元内容(単元名)	具体的な学習内容
第1学期	4	1 単元 現代社会と健康	1. 健康の考え方と成り立ち 2. 私たちの健康のすがた
	5		3. 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり 4. 生活習慣病とその予防
	6		5. 食事と健康 6. 運動・休養と健康 7. 喫煙と健康
	7		8. 飲酒と健康
第2学期	9	9. 薬物乱用と健康 10. 感染症とその予防 11. 性感染症・エイズとその予防 12. 欲求と適応機制 13. 心身の相関とストレス 14. 心の健康のために 15. 交通事故の現状と要因 16. 交通事故を防ぐために	・健康については、様々な考え方があり、様々な要因から成り立っていることを理解する。 ・我が国の健康水準は向上を続けてきたが、健康問題は時代と共に変化していることを理解する。 ・適切な意志決定・行動選択をするためには何が重要であるかを学び、健康に係わる環境づくりの重要性を知る。 ・望ましくない習慣をやめる作戦をたててみる。 ・生活習慣と関連の深い病気を生活習慣病と言うが、その予防方法を学ぶ。 ・食事は健康の基礎であることを知り、健康的な食事をとる必要性を理解する。 ・食生活の改善に役立てるために自分の体型を知る。 ・適度な運動が健康を作ることを理解し、休養の必要性も考える。 ・喫煙が身体に及ぼす大きな影響を理解し、全世界で取り組むたばこ対策を学ぶ。 ・たばこの広告について考える。 ・アルコールが身体に及ぼす影響を理解し、様々な飲酒対策を学ぶ。
	10		・薬物は人生を台無しにし、自分の周囲や社会にも悪影響をもたらすことを再確認する。 ・問題となる感染症は、変化していることを知りその予防に社会と個人で取り組むすべを学ぶ。 ・若者の間で問題となっている性感染症・エイズを知り予防法を学ぶ。 ・欲求は成長と共に多様化し、心のいろいろな働きを理解する。 ・一体となって働いている心と体に影響を与えるストレスについて学ぶ。
	11		・ストレスの様々な対処方法と自己実現が心の健康につながることを理解する。 ・3つの要因がかかわって交通事故が起き、若者では自動車と二輪車の事故が多い事を知る。
	12		・運転者には、資質と責任が必要であり、安全な交通社会づくりが進められている事を学ぶ。 ・安全な生活を送るために私たちがすべきこと、出来ることを考える。
第3学期	1	17. 応急手当の意義とその基本 18. 日常的な応急手当 19. 心肺蘇生法の原理とおこない方	・適切な応急手当は命を救い、痛みを和らげる事を知り、応急手当の最初のポイントは確認と観察であることを身に付ける。
	2		・けがに応じた応急手当を学び、熱中症の適切な手当を確認する。
	3		・心肺蘇生法は原理に基づき、適切な手順があることを学ぶ。 ・心肺蘇生法を実習する。

芸術音楽科シラバス

茨城県立神栖高等学校

教科名	芸術	単位数	2	教科書等	MOUSA2
科目名	音楽Ⅱ	教材等	音楽研究ノート、キーボード、ギター、ハンドベル、三線（レンタル楽器）		
目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化の理解を深め、豊かな情操を養う。				
評価の観点	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	知識・鑑賞の能力	
観点の趣旨	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じしながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚するために必要な知識を身に付け、それらの働きを感じながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。	
評価方法	学習状況の観察	○	○	○	○
	提出物・課題等	○	○	—	○
	実技試験等	—	○	○	—
観点の重み (%)	30	20	30	20	

学期	月	単元内容（単元名）	具体的な学習内容	
第1学期	4	○ギターの様々な奏法を学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> ・TAB譜「木星」 ・ダイアグラム 	<ul style="list-style-type: none"> ・ギターの正しい奏法の特徴を理解する。 ・ギターに関する楽譜の正しい読み方を身につけ、演奏する。 ・弾き語りの教材を取り入れ、歌唱の活動へと結びつける。
	5			
	6	○楽曲の特徴を捉えて歌おう	・「フニクリ フニクラ」	<ul style="list-style-type: none"> ・校歌を覚え、行事や式典で歌えるようにする。 ・詩の情景や心情を踏まえながら表現意図を持って独唱する。 ・イタリア語の発音に親しみ、言語の特徴や曲想にあった発声の仕方を身につける。
	7	○オペラを鑑賞しよう	・歌劇「カルメン」	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚と旋律がどのように関わり合っているかを理解する。 ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて鑑賞する。 ・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞する。

第2学期	9	○三線に挑戦しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・「海の声」 ・「涙そうそう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・三線の奏法について学び、音色や響きを味わいながら演奏する。
	10	○楽典を学ぼう	<ul style="list-style-type: none"> ・音名 ・音符、休符 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に習った音名や音符・休符について復習する。 ・正しい音、リズム等音楽を形づくっている要素を知覚し、歌唱や器楽での表現活動ができるよう結びつける。
	11	○ハンドベル	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスソング ・星に願いを 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の曲想や音楽を形づくっている要素を知覚し、他者と協働してハンドベルを演奏する。
	12	○【創作】オルゴールでお気に入りの曲を作ろう		<ul style="list-style-type: none"> ・楽典で学んだ音名・音符・休符を生かして、お気に入りの曲を作成する。 ・イメージをもって創造的にメロディーを変奏・編曲する。 ・音素材の特徴を生かし、反復・変化・対照などの構成を工夫して音楽をつくる。
第3学期	1	○時代背景と結びつけて鑑賞しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・交響詩「フィンランディア」 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して鑑賞する。 ・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞する。
	2	○イタリア歌曲を歌おう	<ul style="list-style-type: none"> ・Nel cor piu non mi sento 	<ul style="list-style-type: none"> ・イタリア語の発音に親しみ、言語の特徴や曲想にあった発声の仕方を身につける。 ・言葉の抑揚と旋律がどのように関わり合っているかを理解する。 ・詩の情景や心情を踏まえながら表現意図を持って独唱する。
	3	○合唱をしよう	<ul style="list-style-type: none"> ・ハナミズキ ・上を向いて歩こう 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を生かして豊かな声で歌う。 ・日本語独特の響きを生かすと共に、音楽を形づくっている要素を知覚し、表現意図を持って歌う。 ・ハーモニーを感じ、他者と協働して歌う。

芸術科シラバス

茨城県立神栖高等学校

教科名	芸術科書道	単位数	2	教科書等	教育出版 新編 書道Ⅱ
科目名	書道Ⅱ	教材等		硬筆レッスン帳	
目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。				
評価の観点	書への関心・意欲・態度	書表現の構想と工夫	創造的な書表現の技能	鑑賞の能力	
観点の趣旨	書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	
評価方法	学習状況の観察	○	○	○	—
	提出物・課題等	○	—	—	○
	実技等	○	○	○	—
観点の重み (%)	50	20	20	10	

学期	月	単元内容 (単元名)	具体的な学習内容
第1学期	4	書写材料と書体・書風の変遷 一 漢字の書の学習 一 篆書の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・篆書とはどのような書体かを知り、歴史的な位置づけを理解する。 ・代表的な篆書の古典を鑑賞し、時代背景等に関する知的理解を経て、臨書学習で各古典の特徴を把握することにより篆書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、その特徴を理解する。 ・作品に対する効果を考え、姓名印を刻し、押印する。 ・葉書・封筒・便箋・履歴書などの書式を理解し、練習する。 硬筆コンクールに出品するための練習をする。
	5	1 さまざまな篆書 2 篆書の基本を知ろう 石鼓文の鑑賞と臨書 身のまわりで見られる篆書 3 金文(召尊)の鑑賞と臨書 4 甲骨文の鑑賞と臨書 5 篆書の作品の鑑賞と臨書	
	6	二 篆刻・刻字の学習 1 篆刻の学習	
	7	くらしの中の書 硬筆の学習	
第2学期	9	三 隷書の学習 1 さまざまな隷書 2 隷書の基本を知ろう 曹全碑の鑑賞と臨書 身のまわりで見られる隷書	<ul style="list-style-type: none"> ・隷書とはどのような書体かを知り、歴史的な位置づけを理解する。 ・代表的な隷書の古典を鑑賞し、時代背景等に関する知的理解を経て、臨書学習で各古典の特徴を把握することにより隷書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、その特徴を理解する。 ・草書の成立と歴史的な位置づけを理解する。 ・代表的な草書の古典を鑑賞し、時代背景等に関する知的理解を経て、臨書学習で各古典の特徴を把握することにより草書の基本的な用筆・運筆、結構を習得し、その特徴を理解する。 ・代表的な楷書の古典を鑑賞し、作者や時代背景等に関する知的理解を経て、臨書学習で各古典の特徴を把握することによりさまざまな楷書の用筆・運筆、結構を習得し、その特徴を理解する。 ・仮名の書の古典の臨書や鑑賞をとおして表現技法を習得し、短冊や散らし書き等の形式についても理解を深める。 ・詩文、形式、用具・用材、構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考え、自分の感性をどのように表現していくかについて考える。
	10	四 草書の学習 1 草書の成立 2 書譜の鑑賞と臨書 3 十七帖の鑑賞と臨書	
	11	六 楷書の学習 1 皇甫誕碑の鑑賞と臨書 3 魏靈藏造像記の鑑賞と臨書 4 小楷の書の鑑賞と臨書	
	12	二 仮名の書の学習 1 仮名の種類 2 仮名の書の特徴 三 漢字仮名交じりの書の学習	
第3学期	1	二 篆刻・刻字の学習 2 刻字の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・刻字の用具・用法・手順を学ぶ。 ・これまで学習してきたことを生かし、草稿を作る。
	2		
	3		

英語科 シラバス

茨城県立神栖高等学校

教科名	外国語	単位数	4	教科書等	VISTA English Communication II New Edition
科目名	コミュニケーション英語II	教材等		ワークブック、ファイル、英和辞典	
目標	英語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をするとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な力を養う。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
観点の趣旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。	
評価方法	学習状況の観察	○	○	○	○
	提出物・課題等	—	○	○	—
	定期考査等	—	○	○	○
観点の重み (%)	25	25	25	25	

学期	月	単元内容 (単元名)	具体的な学習内容
第1学期	4	Lesson1 Birthdays、 Here and There	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疑問詞やifで始まる節 ・ 3つの国の誕生日の祝い方から、文化の違いを知る。 ・ 疑問詞やifで始まる節を用いて、疑問に思っていることを伝える。
	5	Lesson2 The Emerald Isle	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較 ・ アイルランドの言語や文化、日本との共通点を知る。 ・ 比較の表現を用いて、さまざまなものを比べる。
	6	Lesson3 The Sagrada Familia	<ul style="list-style-type: none"> ・ 名詞を修飾する分詞 ・ サグラダ・ファミリアの設計の特徴から、物のとらえ方を考える。 ・ 過去分詞と現在分詞を使い分ける。
	7	Lesson4 Nobel Prize Episodes	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知覚動詞 ・ tell ~ to do ・ 国際的権威のある賞の1つ、ノーベル賞についてのこぼれ話を知って関心を深める。 ・ 知覚動詞の形、tell~to doなどの形に慣れる。
第2学期	9	Lesson5 Flowers in the Tomb	<ul style="list-style-type: none"> ・ 使役動詞 ・ 関係代名詞what ・ ハワード・カーターがツタンカーメンの墓で最も美しいと思ったのは何かを知り、その理由を考える。 ・ 使役動詞の形、関係代名詞whatの使い方に慣れる。
	10	Lesson6 Becoming the Best	<ul style="list-style-type: none"> ・ how to do ・ It seems that ~. ・ 錦織圭選手のインタビューから、世界で活躍する秘訣を学ぶ。 ・ 疑問詞と不定詞の組み合わせ、seemの用法に慣れる。
	11	Lesson7 The Galapagos Islands	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在完了進行形 ・ 形式目的語it ・ 今、ガラパゴス諸島に起こっていることは何かを知る。 ・ 現在完了形と現在完了進行形を使い分ける。
	12	Lesson8 Shodo、 Old and New	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部分否定 ・ can be done ・ 伝統文化を新しいスタイルで発展させることについて考える。 ・ 部分否定の訳し方に注意し、さまざまな助動詞+受け身の形に慣れる。
第3学期	1	Lesson9 Water World	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係代名詞の非制限用法 ・ 昔の水族館、現在の水族館について知り、また現代技術の果たした役割を考える。 ・ 関係代名詞の制限用法と非制限用法を使い分けられるようにする。
	2	Lesson10 A Long Friendship	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去完了形 ・ 強調構文 ・ 日本とトルコの友好関係を知り、協調、共生のためにはどんな心がけが必要かを考える。 ・ 現在完了形と、過去完了形を使い分けられるようにする。
	3	ENJOY READING! I' m Afraid of Manju!	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発音に注意し、役になりきって英文を音読する。

家庭科 シラバス

茨城県立神栖高等学校

教科名	家庭科	単位数	2	教科書等	家庭基礎 自立・共生・創造 東京書籍
科目名	生活科学 I	教材等		家庭基礎 自立・共生・創造 東京書籍	ノート
目標	1. 学習した知識や技術を活かし家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 2. 実生活をより良くするための技術を向上させる。 3. グループワーク学習や実習を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現		技能	知識・理解
観点の趣旨	「人の一生と家族、福祉、衣食住消費生活等」に関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組んでいる。	学校生活や実生活において課題を見だし、身に付けた知識を活かして自分なりの解決策を考えている。		調理及び被服実習等において将来役に立つための基礎的な生活技術を身に付けている。	「人の一生と家族、福祉、衣食住、消費生活等」に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察	○	○	○	○
	提出物・課題等	○	○	○	○
	定期考査等	-	-	-	○
観点の重み (%)	15	15		30	40

学期	月	単元内容 (単元名)	具体的な学習内容
第1学期	4	食生活をつくる	生活に生かそう ～ホームプロジェクト～
	5		調理実習
	6		(和食)
	7		(洋食) (中華)
第2学期	9	保育	体験学習
	10		・折り紙
	11		・くるくる絵本
	12		・新生児人形 ・妊婦 ・高齢者
第3学期	1	消費行動を考える	クレジットカード
	2		悪質商法
	3		

商 業 科 シ ラ バ ス

茨城県立神栖高等学校

教科名	商 業	単位数	2	教科書等	ビジネス実務 新訂版（実教出版）
科目名	ビジネス実務	教材等		教科書、ノート、問題集、電卓他	
目 標	オフィス実務、珠算・暗算、ビジネス英語に関する基礎的な知識と技術を実践的、体験的な学習を通して習得させ、ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や業務の合理化の重要性について理解させるとともに、ビジネスマナーを身につけさせ、適切にコミュニケーションを図り、ビジネスの諸活動を円滑に行う能力と態度を育てる。				
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
観点の趣旨	ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や、社会人として望ましい心構えや態度を身につけている。 電卓に関心を持ち、意欲的に電卓学習に取り組んでいる。	ビジネスの様々な場面における適切なコミュニケーションの方法や基礎的な知識をもとに自ら考え工夫や表現することができる。 電卓における運指法を正しく理解し、適切な計算を行うことができる。	社会人として望ましい心構えやビジネスマナーを身につけ、具体的なビジネスの場面において適切にコミュニケーションをとることができる。 電卓を使って正しく四則計算、ビジネス計算を行うことができる。	ビジネスにおけるコミュニケーションの意義や適切な方法、ビジネスコミュニケーションやオフィス業務の重要性を理解している。 電卓のしくみ、四則計算の方法を正しく理解し、活用できる。	
評価方法	学習状況の観察	○	○	○	○
	提出物・課題等	—	○	○	○
	定期考査等	—	○	○	○
観点の重み (%)	25%	20%	30%	25%	

学期	月	単元内容（単元名）	具体的な学習内容	
第1学期	4	第1部 第2章 ビジネスマナー 第2部 第2章 電卓（1） ◆ 珠算電卓検定 ◆ 1学期期末考査	1. 挨拶 2. 表情や身のこなし 1. 計算の基礎 2. 加減算 3. 乗算 4. 除算 5. 伝票算	① 場面に応じた挨拶の必要性を理解し、挨拶やお辞儀の仕方を実践を通して学習する。 ② 身だしなみとともに表情や身のこなしが第一印象の決め手になることを理解する。 ① 珠算・電卓の学習の基礎である姿勢や数字の書き方を理解し、運指法を習得できるように学習する。 ② 電卓の機能を理解し、機能を効率よく使えるように学習する。 ③ 加算と減算について計算方法を身につけ、反復練習をすることにより、計算力の向上に努める。 ④ 乗算・除算について計算方法を身につけ、反復練習をすることにより、計算力の向上に努める。 ⑤ グランドトータル機能・固定小数点機能・メモリー機能・パーセント機能について理解する ⑥ 乗算・除算の学習、加減算の反復練習を継続し、四則計算の習熟に努める。 ⑦ 伝票を使った計算方法を学習する。 ⑧ 模擬試験問題・検定試験問題（過去問）を使って計算する。 ・ 検定試験（普通計算部門）を受検する。 ・ 期末試験を実施する。
	5			
	6			
	7			
第2学期	9	第2部 第2章 電卓（2） ◆ 珠算電卓検定 ◆ 2学期期末考査	1. 度量衡と貨幣の換算 2. 売買・損益の計算	① メートル法・ヤード法・ポンド法の換算のしかたを学習する。 ② 小数・百分率・歩合・分数で標記の仕方を学習する。 ③ 価格、定価、売価について学習する。 ④ ビジネス計算の問題を、制限時間内に正確に解答できるように習熟する。 ⑤ 模擬試験問題・検定試験問題（過去問）を使って計算する。 ・ 検定試験（ビジネス計算部門）を受検する ・ 期末試験を実施する。
	10			
	11			
	12			
第3学期	1	第3章 ビジネスコミュニケーション ◆ 学年末考査 ◆ ビジネス文書の作成	1. コミュニケーションの基本 2. ディスカッション 3. プレゼンテーション 4. ディベート	① 日常生活とは異なるビジネスコミュニケーションの技能の必要性を理解する。 ② ディスカッションの方法を理解し、グループディスカッションを通してディスカッションに参加する際の基本的な姿勢を学習する。 ③ プレゼンテーションの方法を理解し、グループ発表を通してプレゼンテーションの技能を学習する。 ④ ディベートを通して身につく能力や技法がビジネスの場で生かされることを理解する。
	2			
	3			